

自らがやらなくてはと思う気持ちだが、可能性を広げていく



勝井 優

Masaru Katsui  
勝井建設株式会社  
代表取締役社長

勝井建設株式会社  
会社概要

創業者 昭和22年6月  
代表者 代表取締役社長 勝井優  
従業員数 124名  
営業内容 土木一式、建築一式、深礎工事、  
建築、造園、水道施設、採石  
本社 〒740-0044 岩国市大字通津2396番地  
TEL 0827-38-1231



テレビでタンク火災の検証を見て、「これは急務なものだ。自分たちの力でなんとかならないか」と考えた岩国市の勝井建設株式会社・勝井優社長。浮根式液体貯蔵タンクの制振装置開発は、平成18年度「新分野進出モデル構築支援事業」に採択され、一歩一歩実現に向けて近づいています。この新しい挑戦への意気込みを勝井社長とご子息である勇次さんに伺いました。

■人と寄り添う  
建設業のあり方

岩国市に本社を置く勝井建設株式会社は、昭和22年、戦後の度重なる災害の復旧工事から始まりました。その後昭和57年より、土木の基礎工事の一環である深礎工事に進出。業界に先駆けて機械施工を導入し、山陽・山陰自動車道の施工をはじめ、全国へ業務を拡大していきました。また従来、振動障害、じん肺、難聴などの労働障害が発生することもある穿孔作業に対して、立杭削孔機を独自に開発し、安全性と作業効率の向上に努力を続けてきました。

「人の命と財産を守るのは、土木の本質です。建設業は人の営みの一番密接した部分にあると考えています」と勝井社長。  
そして現在、災害から人命を守る新たな取り組みがまた始まっています。

■災害は待つてくれない  
自分たちでできることを  
やってみよう

平成18年度、同社が建設業振興基金の「新分野進出モデル構築支援事業」に採択されたのが、浮根式液体貯蔵タンクの制振装置開発事業。これは、地震が発生した際に起こりうる長周期振動（間隔の大きな揺れ）によって、石油な

どの液体がタンクの中で波打ち、タンクを損傷させ、さらにはその損傷によって火災など甚大な災害が発生することに着目したものです。

「2003年に北海道で起こったタンク火災の検証をした番組をテレビで見たのがきっかけでした。長周期振動から起こるスロッシング現象（共振して、大きな波を起こす）に対して、未だ制御技術が実用化されていないと知り、何か自分達にできることはないだろうかと思っただけです。」と勝井社長。その後、徳山高専の教授に相談を仰ぎ、ご子息である勇次さんとともに、ばねとおもりをタンクの浮根根につけることを基本構成とした制振装置を考案しました。現在は、タンクの模型を使った実験を行い、装置の効果を概ね把握した状態だそう。

勇次さんは、制振装置の軽量化や、タンク個別の条件（大きさ、立地等）に応じた設計を簡単に行える条件式など、まだ課題はたくさんありますが、災害はいつ起こるか



タンクモデル

それらを個別ではなく、全体から見渡すように考え、調和の必要性や不可欠なもの、そして足りないものを発見し補っていく。浮根式液体貯蔵タンク制振装置をはじめとする、勝井建設株式会社の取り組みのこれからの期待が膨らみます。

■地球上にあるすべての生命に  
優しくありたい

今後について、勝井社長は人にも環境にも優しい地域づくりを行っていきたいとおっしゃいます。「私たちが目指しているのは、地球上にあるすべての生命（いのち）に優しい環境づくりです。人に優しく、地域に優しく、地球に優しくということに常に意識し、責任をもって建築文化の創造と環境づくりに励みたいと思います」

わからな  
いですし、  
出来るだ  
け早く実  
用化させ  
たいです」  
と話されていま



勝井勇次さん